



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

No. 165

2026. 冬

日赤あいち

- ▶ CLOSE UP
ことばを超えて学び合う、
ひろがる地域のつながり
- ▶ 愛知県支部長新年の挨拶
- ▶ 大阪万博 体験レポート
- ▶ TOPICS
- ▶ Information

CLOSE UP

ことばを超えて学び合う、
ひろがる地域のつながり



Information インフォメーション

卒業献血キャンペーン実施中!

旅立ちの日に、誰かの希望になろう

愛知県赤十字血液センターでは、この春に高校・短大・専門学校・大学を卒業される学生の方を対象に「卒業献血キャンペーン」を実施します。県内9力所の献血ルームまたは移動献血会場で献血の受付をされた方へ「UHA味覚糖 コロロ 3種セット」をプレゼント! (学生証をご提示ください)。実施期間は令和8年3月31日(火)まで。(記念品が無くなり次第終了) 将来にわたって輸血用血液を必要とする患者さんの命を守るためには、若い世代の皆さんの献血ご協力が必要です。この機会にぜひ、献血会場へお越しください。



「箏・尺八コンサート」を開催します!

令和8年2月9日(月)午後2時から(開場:午後1時30分)、日赤名古屋第一病院 東棟2階 内ヶ島講堂にて「箏・尺八コンサート」を開催します。当コンサートは(公財)名古屋市文化振興事業団 名古屋能楽堂による企画で、箏・尺八の調べにのせて、日本のわらべ唄やジブリメロデーなど誰もが一度は聞いたことのあるポップスや童謡を披露していただきます。癒しの音色をぜひご堪能ください。
観覧は無料、申込不要です。なお、病院内では必ず不織布マスクをご着用ください。
ぜひ、皆様お誘い合わせのうえご来場ください。



TOPICS REPORT NEWS CAMPAIGN 日本赤十字豊田看護大学 入試情報

赤十字の理念のもと、一緒に看護師を目指す

日本赤十字豊田看護大学は日本赤十字社愛知支部病院救護看護婦養成所として発足し80余年の歴史を持つ中部圏唯一の赤十字の看護大学であり、全国で卒業生が活躍しています。医療・保健から災害救護・国際活動まであらゆる現場で活躍できる看護師を目指し、災害看護や国際交流、実習に力を入れ、実践力をしっかりと身につけることができます。

一般入試の出願は1月5日から!個別学力試験のない共通テスト利用選抜を含め本学は1月から3月まで試験があり、進学先を早く決めたい方も最後まで頑張りたい方もどちらもお応援します!赤十字の仲間になり、本学で看護師を目指しませんか?

2026年度入試情報(2026年4月入試)		
注:入試科目や出願期間等、詳細は本学ホームページをご覧ください。		
試験名	試験日	合格発表日
大学独自選抜特待生プラス	1/31(土)	2/6(金)
大学入学共通テスト利用選抜(前期A・B)	個別試験なし	2/10(火)
大学入学共通テスト利用選抜(後期)	3/3(火)	3/6(金)
大学入学共通テスト利用選抜(赤十字6看護大学連携併願選抜)	個別試験なし	3/2(月)



日本赤十字豊田看護大学 公開講座情報 祖父母向け子育て支援講座

共働き家庭が増えている昨今、忙しい親に代わって子育てを手伝う祖父母の方も増えています。でも、今時の子育ては昔とはちょっと違うと感じ、戸惑いをもつ方も多いようです。現代の子育てにおいて大事にされていることを知って、孫育てに役立ててみませんか

- 日 時 令和8年3月7日(土) 13:00~14:30
- 会 場 日本赤十字豊田看護大学
- 対 象 祖父母又は子育てについて聞きたい方
- 申し込み方法 本学HP又は二次元コードからお申し込みください(申込期限:令和8年2月23日(月)まで)



活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ 江口光株式会社 様
- ▶ 藤吉工業株式会社 様
- ▶ 川崎設備工業株式会社 様
- ▶ 株式会社バンショー 様
- ▶ 中京プラントサービス株式会社 様
- ▶ 株式会社平岩鉄工所 様
- ▶ 日本パッキング株式会社 様
- ▶ 株式会社山忠 様
- ▶ シンコー株式会社 様

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

郵便振替口座／00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部

郵便局備え付けの振込取扱票でお手続きください。



〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)
発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和8年1月1日



活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち

検索

<https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/>



Instagram
NISSEKI.AICHI

PRESENT

ハートラちゃん ぬいぐるみ(小)

ハートラちゃんの
ぬいぐるみを
抽選でプレゼント

3
名様



Mail : aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
Fax : 052-971-1590
郵 送 : 〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部
「日赤あいちプレゼント」係

明記事項
①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先
⑥ご意見・ご感想など
締切/令和8年3月31日必着

活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち

検索

<https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/>



日本赤十字社
愛知県支部
支部長
大村秀章

平素から日本赤十字社の事業推進に格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
昨年は、国内においても度重なる台風や豪雨、地震などの自然災害が発生し、多くの方々が被災されました。また、国際社会においても情勢不安が長期化し、いのちと暮らしが脅かされる人道危機が続いております。こうした状況を受け、当支部では災害義援金や海外救援金の募集、また必要に応じて職員の出発等に努めてまいりました。
また、平時の活動として、災害発生時に迅速な対応ができるよう、様々な想定の実習・研修を実施するほか、救急法等の講習普及、青少年赤十字、赤十字ボランティアの育成など、地域の皆様とともに、いのちと健康、尊厳を守る取り組みを進めております。

さらに近年、貧困や孤独、孤立、多文化共生など、地域社会が抱える問題は一層複雑化しています。こうした多様な社会ニーズに応えるため、当支部では「子ども・子育て世代の支援」「高齢者の健康生活支援」「多文化共生社会の実現に向けた事業」「災害時の被災者支援」の4つを重点分野として掲げ、県内の市町村や関係団体、地域住民の皆様と連携しながら新たな取り組みを展開しております。本年も地域に寄り添い、必要とされる支援を着実に実施してまいります。今後とも引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

赤十字パビリオン 体験レポート



あたり前の毎日に感謝!

人命を守る活動の大切さを、あらためて考えさせられる展示でした。災害現場での救護や戦争による負傷者の救済など、国際支援での様子が映像により、リアルに感じることができました。命を守る赤十字という大きな枠の中で、少しでも奉仕団として活動できることに誇りを感じます。

弥富市赤十字奉仕団委員長 鈴木みどり



多くの人の心を揺さぶる展示だった!

前回の愛知万博での展示を思わせるような演出があり、しみじみと懐かしい気持ちになりました。映像を鑑賞し"考える"ブースが特に印象的で、感動し涙を流している来場者も多く、かくいう自分も心が揺さぶられこみあげてくるものがありました。

愛知県赤十字安全奉仕団委員長 青山和平



Topics トピックス

活動やイベントを報告します

第43回 NHK海外たすけあい

ご協力ありがとうございました

NHKと日本赤十字社は毎年12月に「NHK海外たすけあい」として、世界で苦しんでいる人々への支援活動使途とする寄付金の募集を行っています。

本年度もNHK名古屋放送局や愛知県支部の募金受付や、県内各地で赤十字奉仕団による街頭募金活動を行い、多くの方にご協力いただきました。

皆様からお寄せいただいた寄付金は、海外の紛争や災害、飢餓、病気などにより苦しんでいる人々を支援する赤十字の活動に使われます。ご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました。



第16回中村日赤ふれ愛まつりを開催!

地域のみなさまとともに、健康で元なまちづくり

11月22日(土)、穏やかな秋晴れの下、日赤名古屋第一病院で「第16回中村日赤ふれ愛まつり」を開催しました。

明治安田生命名古屋西支社様ご協力の「健康チェックコーナー」や、警察・消防の車両展示を行ったほか、SVリーグ所属男子バレーボールチーム「ウルブドッグス名古屋」のマスコットで、愛知県支部赤十字親善大使のウルドくんが登場し、会場は大いに盛り上がりしました。また、大村秀章愛知県支部長が当院を訪れ、来場者の皆様にご挨拶させていただきました。

来年度も様々な企画を予定していますので、ぜひお越しください。



ことばを超えて学び合う、ひろがる地域のつながり

2024年12月末時点で、愛知県に住む外国人住民は約33万人。全国でも東京都・大阪府に次いで多くの方々が生きています。日本赤十字社愛知県支部では、行政・企業・スポーツチームとの協働により、地域の多様なルーツを持つ人々が「命をまもる方法」を一緒に学びあえる場づくりを進めています。赤十字が実施する救急法講習では、誰にでも伝わる「やさしい日本語」を活用するとともに、外国にルーツを持つ指導員が母語を交えながら丁寧にサポート。ことばの垣根を越え、互いに寄り添いながら学び合うあたたかな輪が広がっています。

外国にルーツをもつ方々に「やさしい日本語」で伝える

日本赤十字社の救急法講習とは？

日本赤十字社では一般市民を対象に救急法講習を実施しています。救急車が到着するまでの間に行う応急手当（一次救命処置）は、傷病者の命をつなぐうえで非常に重要です。

特に、心停止の場面で行う胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用は、数分対応が生死を分けることもあります。日本赤十字社愛知県支部の講習では、こうした知識と技術を、年齢や言語、立場を問わず誰もが実践できるように工夫して伝えています。今回の講習では、日本語が得意でない方にも正しく伝わるよう、「やさしい日本語」を用いて進行之ました。やさしい日本語は、外国人や子どもなど、言葉に不慣れな方に対して情報を正確に伝えるための表現方法であり、災害時や緊急時の支援にも役立つ重要なコミュニケーション手段です。

日本語を学ぶ学生も地域のちからに

7月16日（水）、蟹江町にある日本語学校にて、日本語を学ぶ外国人学生を対象とした「やさしい日本語」による救急法講習を実施しました。ユゼックインターナショナルスクールは、日本での進学や就職を目指すネパール、ミャンマー、ベトナム、台湾など多国籍の学生が在籍する日本語学校です。今回の講習は、同校からの依頼を受け、実現したものです。

当日は、60名を超える学生が参加し、心肺蘇生（胸骨圧迫・人工呼吸）やAED（自動体外式除細動器）の使い方について学びました。多くの学生にとって、こうした救命技術を学ぶのは初めての経験であり、「やさしい日本語」での説明に耳を傾けながら、真剣に取り組んでいました。

講習では、専門的な用語を避けて、誰にでもわかりやすく伝える工夫を行いました。たとえば、胸骨圧迫は「むねのまん中を何回もおすこと」、人工呼吸は「たおれた人の口からいきをふきこむこと」と説明。AEDについても「さいしょにみどりのボタンをおします」など、「やさしい日本語」で作成したテキストやジェスチャーも交えながら、親しみやすい内容で伝えました。

参加者からは、「母国でも119番で救急車を呼びます！」「信号に書かれた住所を救急車に伝えるといいと初めて知った」などの声があり、日本と母国との制度の違いや共通点に気づく姿が印象的でした。また、「日本でアルバイトをしているときに、もしお客さんが倒れたらどうすればいいか不安だった。今日知れてよかった」といった実生活に即した感想も多く聞かれました。



外国にルーツをもつ指導員が「母語」で伝える

外国にルーツを持つ講習指導員の活躍

11月30日（日）、豊明市の唐竹芝生ひろばで、UR豊明団地周辺の地域住民を対象としたイベント「唐竹芝生ひろば 地域防災フェスタ」が豊明市・URの共催で開催されました。日本赤十字社愛知県支部では、「やさしい日本語」による救急法講習のブースを出展し、外国にルーツを持つ指導員である杉尾美恵子さんと小川ニアさんが講習指導員として活躍しました。



これまで、日本赤十字社愛知県支部では「やさしい日本語」を活用した救急法講習を実施し、その後、「やさしい日本語」でも理解が難しい方には母語で伝えるため、外国にルーツを持つ講習指導員の養成を進めてきました。杉尾さんと小川さんは、この取り組みの中で指導員資格を取得し、現在まで約9年間にわた



り活躍されています。UR豊明団地には外国にルーツを持つ住民が多く、本イベントの目的の一つにも「防災意識の向上と多文化共生の推進」が掲げられています。今回の講習もその一環として実現しました。

当日はベトナム、ブラジル、インドネシアなど外国にルーツを持つ方々に加え、日本の親子連れや高齢者まで幅広い世代の参加がありました。国籍や文化、世代を超えて、心肺蘇生やAEDの使い方を真剣に学ぶ姿が見られました。

参加者からは、「実際にこういう場面に遭遇したとき、戸惑うしかなかったと思うので、学べてよかった」「やさしい日本語は外国人だけでなく、子どもにもわかりやすくて良い」といった感想が寄せられました。

「支援される側」から「支援する側」へ

市町村の防災計画では、外国にルーツを持つ方は「要配慮者」と位置付けられることが多いのが現状です。これは、言葉の壁によることや、それに付随して災害への備えや避難に関する知識・情報を得る機会が少ないことが要因の一つです。しかし「やさしい日本語」や母語で学ぶ機会があれば、「支援される側」とみなされてきた方々が「支援する側」に回り、言葉の壁を越えた共助が広がります。南海トラフ大地震など大規模災害の発生が危惧される中で、この自助・共助力の向上は極めて重要な課題です。

今後も日本赤十字社愛知県支部は杉尾さんや小川さんに続く指導員の養成を進め、多様な人々が参加しやすい開かれた講習を実現し、防災・減災分野の分野においても多文化共生の取り組みを一層推進していきます。



そのあとは「命を守る知識」をみんなでも起こり得ます。

サッカーク教室のあとは、保護者も一緒に参加してやさしい日本語での「AED講習」を実施しました。突然の事故や急病は、誰にでも、どこ



参加した保護者からは、「初めてAEDをさわったけれど、やってみると意外とできた」「日本語が難しくなくて、安心して参加できた」という声が多く聞かれました。

スポーツチームと楽しみながら学ぶ

10月12日（日）、日本赤十字社愛知県支部が包括連携協定を締結している西尾市と東海社会人サッカーリーグ1部に加盟するFC刈谷と協働し、「サッカーク教室」と「AED講習会」を開催しました。当日は、市内に暮らす日本人の子どもたちだけでなく、外国にルーツを持つ子どもたちも含め、約40名が参加しました。

まずはサッカーで「一緒に楽しむ」

サッカーク教室では、FC刈谷から
●鈴木将馬選手
●川崎大翔選手
●宗野裕斗選手
の3名が指導者として参加。準備運動からパス練習、ミニゲームまで、プロ選手と一緒に汗を流しました。



国籍や言葉が違っていても、ボールを追いかける中で自然に声を掛け合い、「ナイス！」「こっち！」とチームプレーが生まれていきました。試合に勝って喜んだり、惜しいプレーにみんなで悔しがったり。その姿はまさに、同じ地域で暮らす仲間の姿そのものでした。



地域に根づく「多文化共生」のために

今回の取り組みは、「一緒に遊び、一緒に学ぶ」機会をつくることで、同じ地域に住む住民同士が自然に交流し、互いの存在を認め合うきっかけづくりを目的としています。子ども同士が仲良くなると、家庭・地域・学校にも笑顔が広がります。こうした小さな積み重ねが、多文化共生のまちづくりにつながっていくと考えています。

